

大阪は‘まち’がほんまにもしろい



能楽師と行くなにわめぐり

～平野の巻～

★謡曲「田村」

都見物に出掛けた東国の僧が、弥生半ばに清水寺に着き、爛漫と咲いたそがれ時の桜を眺めています。そこに幕を手にした一人の童子が現れて木陰を掃き清めます。僧がこの寺の来歴を尋ねると、童子は清水寺建立の縁起を詳しく語ります。その様子がどうも唯人とは思って僧が童子に名を尋ねると、私の名を知りたいのなら、私の帰の方を見て下さい、と田村堂の中へと姿を消します。僧が夜すがら桜の木陰で経を読んでいると威風堂々たる武将姿の坂上田村丸の霊が現れます。そして、勅命を受けて鈴鹿山の賊の討伐に出た折、合戦の最中に千手観世音が出現し、その助勢によって敵をことごとく滅ぼした、という軍物語をして観世音の仏力を讃えます。

①平野郷

平野郷では中世以降、大念仏寺などの有力寺院が建立され、平野七名家などの有力者が中心となって自治都市が形成されていきました。戦国時代には防衛のため、町の周りに環濠を巡らせますが、豊臣秀吉が天下統一を果たすと、有力商人は大坂に移住させられます。大坂の役では平野は徳川方に付き、徳川家康の陣が設けられました。そのとき、末吉氏は代官に任ぜられ、戦後、荒れ果てた町の再整備を行いました。

②坂ノ上春子姫墓所、
坂上一族墓所、末吉家墓所

★坂上 春子(生年不詳・承和元年(834年))は坂上田村麿の娘です。桓武天皇の妃となり、葛井親王・春日内親王を生みました。桓武天皇の崩御後、兄の広野麿を頼り平野庄に移り住みました。

★平野七名家
坂上家は代々この地を領有し、人々から平野殿(田村はん)と呼ばれていましたが、地域の発達とともに子孫が広がり、のちに平野の七名家と呼ばれるようになりました。坂上家から分かれた泥堂氏(のち井上氏)、野堂氏(のち末吉氏)、森氏(のち成安氏)、三上氏、土橋氏、辻飽氏、西村氏の七名家が平野を分割し治めました。

③杭全神社

貞観4年(862)に坂上廣野麿の子当道が氏神として創建したのが始まりといわれます(第一殿)。その後、建久元年(1190)に熊野信仰が流行するなか、熊野證誠権現を勧請建立したのが第三殿です。更に元享元年(1321)、熊野三所権現を勧請建立したのが第二殿であり、後醍醐天皇より「熊野三所権現」の勅額を賜りました。長らく牛頭天王社、熊野権現社と呼ばれていましたが、明治になって社号を杭全神社と定められました。

田村社 坂上田村麿、広野麿、及び坂上家の祖霊、七名家の祖霊を祀ります。

連歌所 連歌のための建物として現存するわが国唯一のものです。

★田村祭
坂上田村麿を偲んで、毎年田村麿の正忌日に当たる5月23日に執り行われます。杭全神社境内の田村社にて坂上七名家ならびに長宝寺、全興寺各住職等による玉串奉納があり、祭壇に献じた「剣菱」というお供物が配られます。その後、平野川対岸にある広野麿の墓前にお参りします。



④環濠跡(お茶池橋)

平野の環濠は自衛の他に灌漑、排水用あるいは洪水の調節池としての役割を持っていました。杭全神社東側のお茶池も平野川と繋がり、船を発着させる船溜として機能していました。

⑤坂上広野麿の墓

平安朝の初め、蝦夷との戦いに武功をたてた坂上田村麿の第二子広野麿が朝廷から杭全庄を賜り、この地を領有しました。広野麿は嵯峨、淳和の二帝につかえ、右兵衛佐に任じられこの地に永住し、天長5年(828年)3月9日に亡くなりました。「平野」の地名の由来は、広野麿が領有したことより「広野庄」となり、後にそれがなまって「平野庄」となったといわれています。

⑥平野の黄金水

平野はもともと低湿な土地柄でそのため水質が悪く、そのままでは飲用に耐えるものは少なかったのです。その中でこの井戸は良質の水に恵まれ、多くの住民に利用されました。また、この水は酒造にも用いられ、豊臣秀吉が催した醍醐の花見にも献上されました。

⑦赤留比売命神社

新羅より渡来の女神、赤留比売命を祀ります。俗称の三十歩神社は、応永年間(1394～1428年)干ばつとき、法華經三十部を誦讀したところ靈驗あらたかであったので、三十部神社がなまったものといわれます。また一説では祭神が「三十町歩」の土地を三十歩と聞きまちがえたためとも伝え、耳の神として信仰を集めました。社殿背後の土壘と松山池には、かつての環濠集落の名残が見られます。

⑧樋ノ尻口地蔵

自治都市・平野は、郷内の安全のため、集落のまわりを濠で囲み、出入りは平野十三口と呼ばれる13ヶ所に設けられた木戸口を使って行われていました。この樋ノ尻口門もその中のひとつです。現在、木戸口はなくなりましたが、地蔵堂とその名称によってかつての位置を知ることができます。

⑫長宝寺

坂上春子姫が、平安時代初めの大同年間(806～810年)に出家して開いた高野山真言宗の寺院であり、坂上家の氏寺でもあります。境内の銅鐘は鎌倉時代の代表的な作で重要文化財に指定されています。

⑪坂上広野麿屋敷跡

明治になるまで坂上氏は長宝寺に隣接して屋敷を構えていたとのこと。

⑩全興寺

平野がまだ広々とした野であった頃、ここに薬師堂が建てられ、そこを中心に人が住みはじめ、平野の町がしだいに広がっていったといわれています。本尊は薬師如来で、聖徳太子の作と伝えられています。

⑨平野町ぐるみ博物館

平野町ぐるみ博物館は、平野の町づくりを考える会が取り組んでいるミニ博物館運動です。博物館といっても、施設や展示物を整備することを目的とするのではなく、運営者と訪問者とのコミュニケーションを通して、住民自身が楽しみながら地域を再発見しようとする試みです。

ちっこいだんじり館、かたなの博物館、パズル茶屋、平野映像資料館、自転車屋さん博物館、幽霊博物館、新聞屋さん博物館、くらしの博物館、鎮守の森博物館、小さな駄菓子屋さん博物館、和菓子屋さん博物館、平野の音博物館、ゆうびん局博物館、珈琲屋さん博物館、へつついさん博物館

★大坂夏の陣
・樋ノ尻口の首地蔵

大坂夏の陣の元和元年(1615)5月7日、徳川家康の樋ノ尻口通過を予想した真田幸村は、この地蔵堂内に地雷を仕掛け大坂城へ引き揚げます。予想通り家康が来て、ここで休憩しましたが、ちょっと座を外したときに地雷が爆発し、危うく命拾いしたという伝説があります。現在全興寺に祀られている首地蔵は、このときの爆発で吹き飛んできた樋ノ尻地蔵の首と伝えられています。